

再選舉に關し打合せを爲したる  
東該選舉期日は十二月十八九日の  
十二月一日海軍將官以下の

仁川釜山の如き開港場に仕向けんと  
する鐵道の輸送力は如何と云ふに基  
も能はざるの狀にあるなり

十時三十分發列車にて北京へ向け  
發したり

需要期に入る昨今依然として閑散不  
振の中に推移しつゝ有る者の如し此  
の順良

港南防波堤工事は本年天候  
りし爲め工事豫定の如く進  
床開張を爲す三十戸佛方面に出張  
御着直京七十海

二玉照勉菴集











第二百二十席

桃川如燕口演浪上義二郎速記

「それはお氣の毒なことだ。」「然  
きますから貴下方は先へ行つて下さ  
い」と二天は渡邊の方へ歸つて参り、

此の話しを曉諭にすると、<sup>上</sup>「それは面白い、俺も一絡め行かう」と支度を來て、三治右衛門の處へ遣つて来た。「ヘニ皆さん、同伴を引連れて来た。〇成丈や大衆の張つて参ります、さア此方へお上んなすつて、」三治右衛門さんは「從處に寝て居ります、」二「寝てお在でなをそつとして置くが宜しい」と病人の寝て居る次の室に大勢集つて背の内は何やら思ひ／＼に話しをいたして居りましたが段々夜が更けて参ると、「さア皆さん、もうそろ／＼来る時だから靜になくては叶へない」と云つて皆々が三治右衛門の寝て居る姿を見て居るモヤヤ

『浮城物語』第八十一回

院主 佐々木杏造

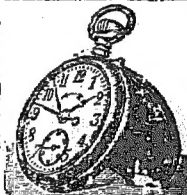
「寝て居たがウーンとうなされる大勢を見て、**「ソレ出たぞ」**と騒ぐのを二天は是を御し、**「皆さん騒いではいけません爺にないい」**とデスが先生、爺に**「しては居られませんが承知をして来たもの、化物に出られちゃア堪りません」**と、また何にも出やアしない、**「ヘー未だ出ませんやアしな」**と聞いて安心をしました」  
此時、雲は病人の枕頭へ来て、**「コレ治右衛門、臍目を覺えよ」と**肩へ手を掛けて、捲り起され治右衛門は、**「コレは皆さんお出下すつて有様うございます」**と、**「今お前は頻りにうなされたが何うかしたかね」**と治へ云、**「只今女房が参りました」**と、**「何に女房が来た、何處から来た」**と治へ云、**「家の戸を排けて貴下方の後を通つて私の側へ参りました」**と、**「何に勝手口より来たて、其々の後を通つて入つて来たて」**と治へ云、**「左様でございます」**と云、**「ハナ」**と四邊を睨で、**「雲は」**

**十二月一日九星**  
 茲十一月七日壬申  
 本命九常 南の大安

山縣五十雄 村上唯吉共著  
 富の道しるべ 價十五錢  
 東京大井町三〇〇番 京成日新報社代刊

廣告

新荷著  
ツル  
國  
懷中時計  
ル  
模試

[illegible]

向上の路は

永久に最善の品質を提供する

花王名餘  
の

使用は怎うしても  
 缺かされない！



附つけて高かう尙しやうで非ひ常じやうに美うつくしく

洗<sup>あら</sup>た<sup>た</sup>後<sup>あと</sup>の

生地きぢの色いろまでも白しろくなる  
ウラボ美みの素白粉もとしろこ

クラゲ白粉



元入植本日水香鶴 店理代西題險石王花	元造製總石王花 店理代東開水香鶴
町土安版大	町喰馬京京
會商卸轄大	會商湖星















